



天空の芸術祭²⁰²⁴ 座標を探る

東京藝術大学と東御市による
域学連携事業



天空の芸術祭2024とは—

東京藝術大学と東御市は2016年より域学連携事業「天空の芸術祭」を開催しています。

8回目の開催を迎えた2024年度は、東御市北御牧地区を舞台に12名の美術家が作品を制作し展示を行ない、
 鑄金研究室による東御市の砂・粘土で型を作りブロンズ・真鍮を流し込むワークショップや、
 中学生を対象としたインスタレーションを体験するワークショップも行なわれました。

北御牧地区は、平安から鎌倉時代まで400年間続いた朝廷に献上する馬を養育する雄大な牧場の「御牧」がありました。

その土地のリサーチワークを通じて、作家たちは自らのルーツを意識しながら、

それぞれの観察力をもってその場所に潜在するものと対話し、創造的に思考を深め、それらは多様な作品として表出されました。

2024



《地底探索をするように山を眺める》

紙にインクジェットプリント

510×880 mm

2024

FORWORD はじめに

座標を探る

今回の芸術祭では、東御市の北御牧地区で多様な作品が制作された。美術家たちは、自分が暮らす土地／自分のルーツや今まで関わってきたそれぞれの3つの地点をつないだ三角形は、小さなものから大きなものまで、それぞれが独自の魅力を放ち、観る者に新たな視点を提供した。

本年度は本学の油画第2、第5研究室、工芸科鑄金専攻の学生が、過去に行なったことが過ぎ去る一過性のものでなく新しく見え、私たちの作品制作の行為が、これらの場所にとって、耕されていく土地の一部となることを目指した。

本芸術祭は、多くの地域の皆様の支援や協力のもと、地域に育まれてきた文化とともに、小さくとも切実な表現から、

東京藝術大学
絵画専攻 | 油画第2研究室・第5研究室
工芸専攻 | 鑄金研究室



ごあいさつ

東御市と東京藝術大学そして地域による域学連携事業として、地域の皆様をはじめ、多くの方の献身的なご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

4月からの会場候補地のリサーチ、宿舎の確保、MUSEUMの準備、東京藝大の2度目の下見が6月にあり、それぞれの準備が完了し、私たちや地域の協力者も多くの藝大生の皆さんと交流することができました。

中学校の皆さんとはワークショップも開催され、交流が深まりました。小学校では全校生徒の197名、中学校の1年、2年生の59名の皆さんが参加し、最後になりましたが、多くのご協力者、ご賛同いただきました。

萩原輝久 [天空の芸術祭2024WG代表]



《地底探索をするように山を眺める》

紙にインクジェットプリント

890×1130 mm

2024



《地底探索をするように山を眺める》

紙にインクジェットプリント

510×880 mm

2024

FORWORD はじめに

座標を探る

今回の芸術祭では、東御市の北御牧地区で多様な作品が制作、展示され、また鑄金とインスタレーションのふたつのワークショップが開催されました。美術家たちは、自分が暮らす土地／自分のルーツや今まで関わってきた場所やこと／東御の地、これら3つの地点から自分の位置を明確にする試みを軸に、距離的だけでない四次元的な自らの座標を探りました。それぞれの3つの地点をつないだ三角形は、小さなものから大きなものまで次元を超えて連なり、互いに影響し合って共鳴しながら増殖し、新しい物語が生まれる可能性を秘めています。

本年度は本学の油画第2、第5研究室、工芸科鑄金の3つの研究室で域学連携を行なうことになりましたが、これまでふたつの研究室の関わりだったところにもうひとつの研究室が加わったことにより、新た過去に行なったことが過ぎ去る一過性のものでなく新しく見える、だからこそ以前行なわれた場所に接続してみるなどのことがありました。場所との関わり方では、その場所でのリサーチワークに主軸を置く者、場所に因私たちの作品制作の行為が、これらの場所にとって、耕されて空気が入り、深層の土があらわになる天地返しとなり、いつかの芽吹きを待つようなものとなっていればと願います。

本芸術祭は、多くの地域の皆様の支援や協力のもとに実施されてきました。今後、リサーチワークでしっかりと1、2年間関わってみたり、これまで通り3ヶ月程度を断続的に過ごしたり、あるいはフットワーク地域に育まれてきた文化とともに、小さくとも切実な表現から、持続的な可能性をもって、美術の分野に拘らず様々な分野の表現がなされていくことも視野に、新たな展開を目指していきます。

東京藝術大学
絵画専攻 | 油画第2研究室・第5研究室
工芸専攻 | 鑄金研究室



ごあいさつ

東御市と東京藝術大学そして地域による域学連携事業として8回目を迎えた天空の芸術祭は無事終了することが出来ました。地域の皆様をはじめ、多くの方の献身的なご協力の賜物と厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

4月からの会場候補地のリサーチ、宿舎の確保、WGの役割、主催者は？ 共催者は？ 経費の捻出は？ 等々課題が山積しておりましたが、一つひとつ課題の整理をしてきました。展示会場となる候補地も諸々の東京藝大の2度目の下見が6月にあり、それぞれの候補地などを視察しました。新たに油画第2研究室の参加もいただき、昨年までの油画第5研究室や工芸専攻鑄金研究室の皆さんと参加作家も多くなり地私たちが地域の協力者も多くの藝大生の皆さんと交流することが出来、人と人がアートを通じてつながり、地域に住む私たちと外からこの東御市に来られる人々の新たなふれあいが、この地域の活性化と地域の文化の中学校の皆さんとはワークショップも開催され、交流も深まったところです。また北御牧小中の児童・生徒さんの作品展も同時開催しました。

小学校では全校生徒の197名、中学校の1年、2年生の59名の作品が所狭しと並びました。普段学校へは中々行く機会も無い地域の方などから一堂に展示され、それを鑑賞出来る事に大変感謝の言葉もいただきました。最後になりましたが、多くのご協力者、ご賛同いただきました企業の皆様に厚く感謝申し上げます。

荻原輝久 [天空の芸術祭2024WG代表]



《あなたの海を探して》

ターポリン、紐

H1830×W2450×D42 mm

2024



《あなたの海を探して》

ターポリン、紐

H1830×W2450×D42 mm

2024

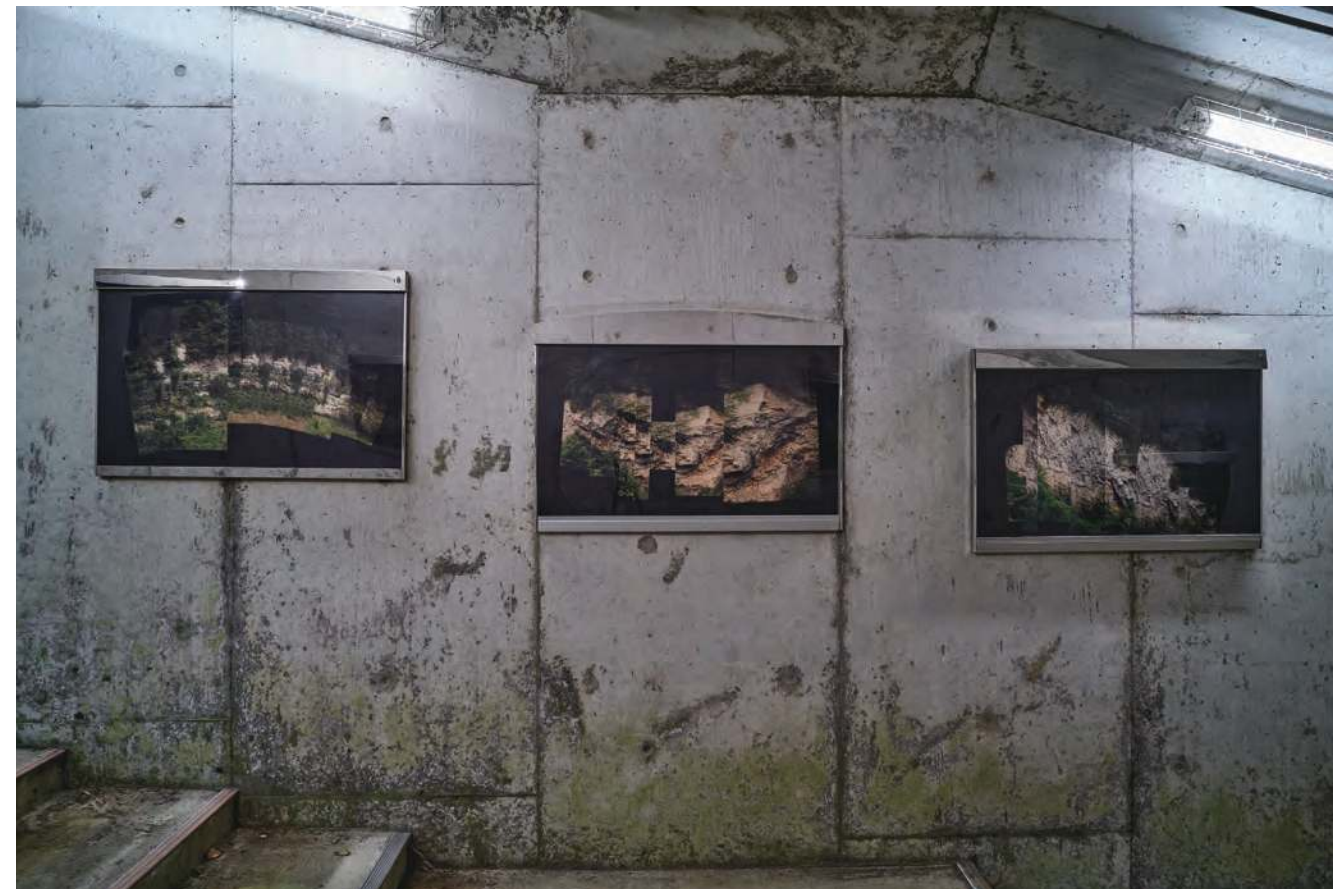


《地底探索をするように山を眺める》

紙にインクジェットプリント

890×1130 mm

2024

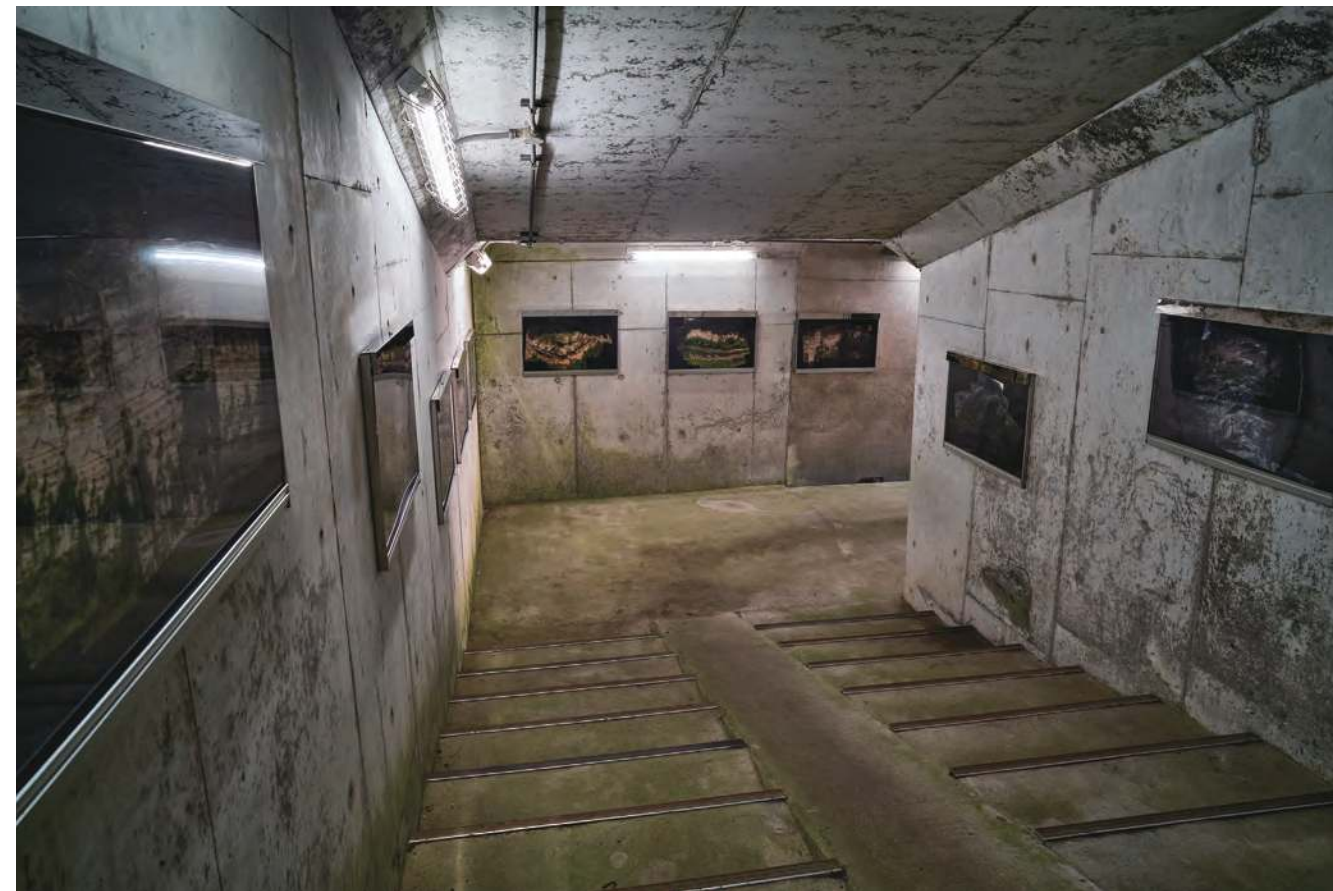


《地底探索をするように山を眺める》

紙にインクジェットプリント

510×880 mm

2024

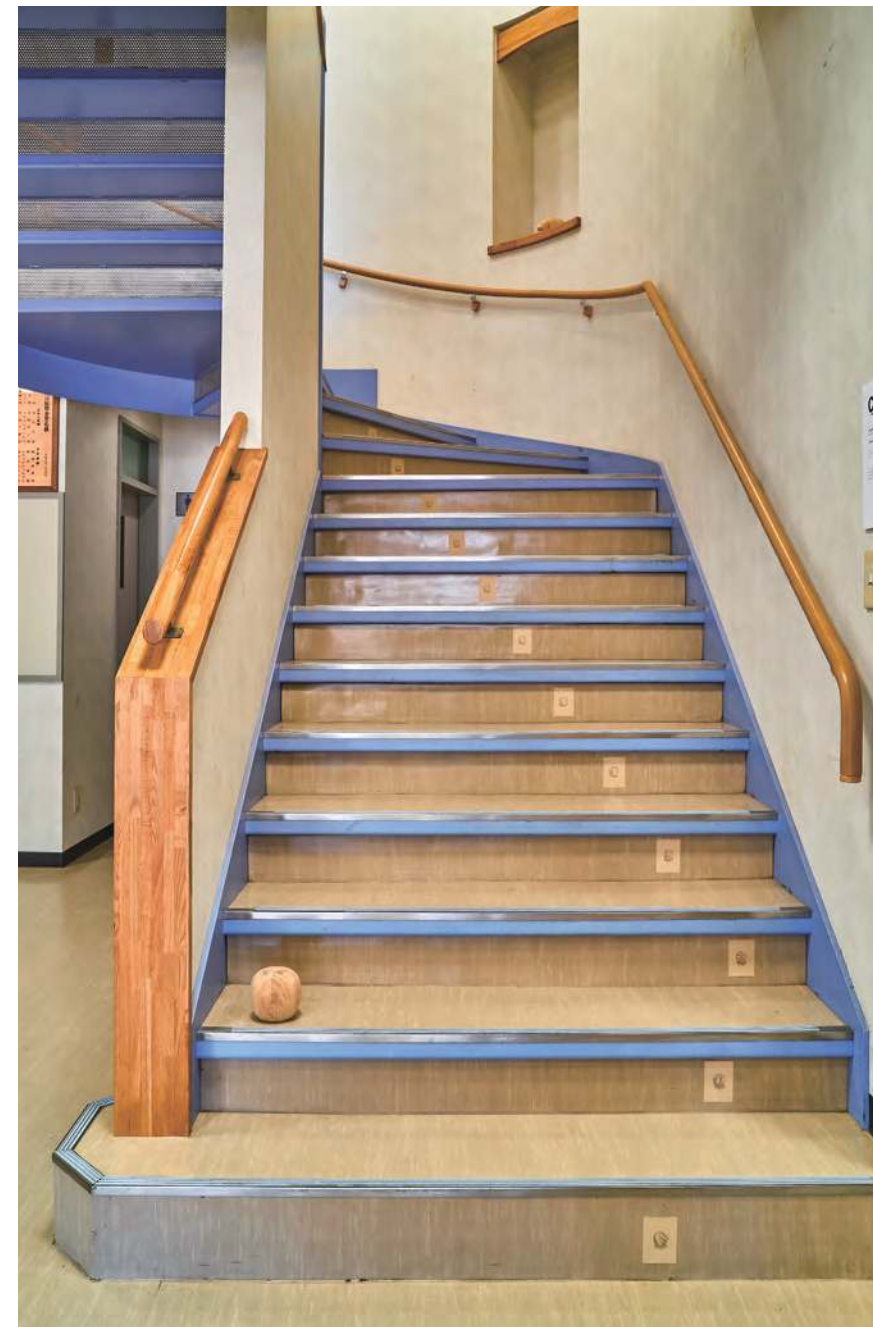


《地底探索をするように山を眺める》

紙にインクジェットプリント

510×880 mm

2024



《フローターズスカルー小猿・おかっぱ・ゾンビー》

木

110×120×90 mm

2023

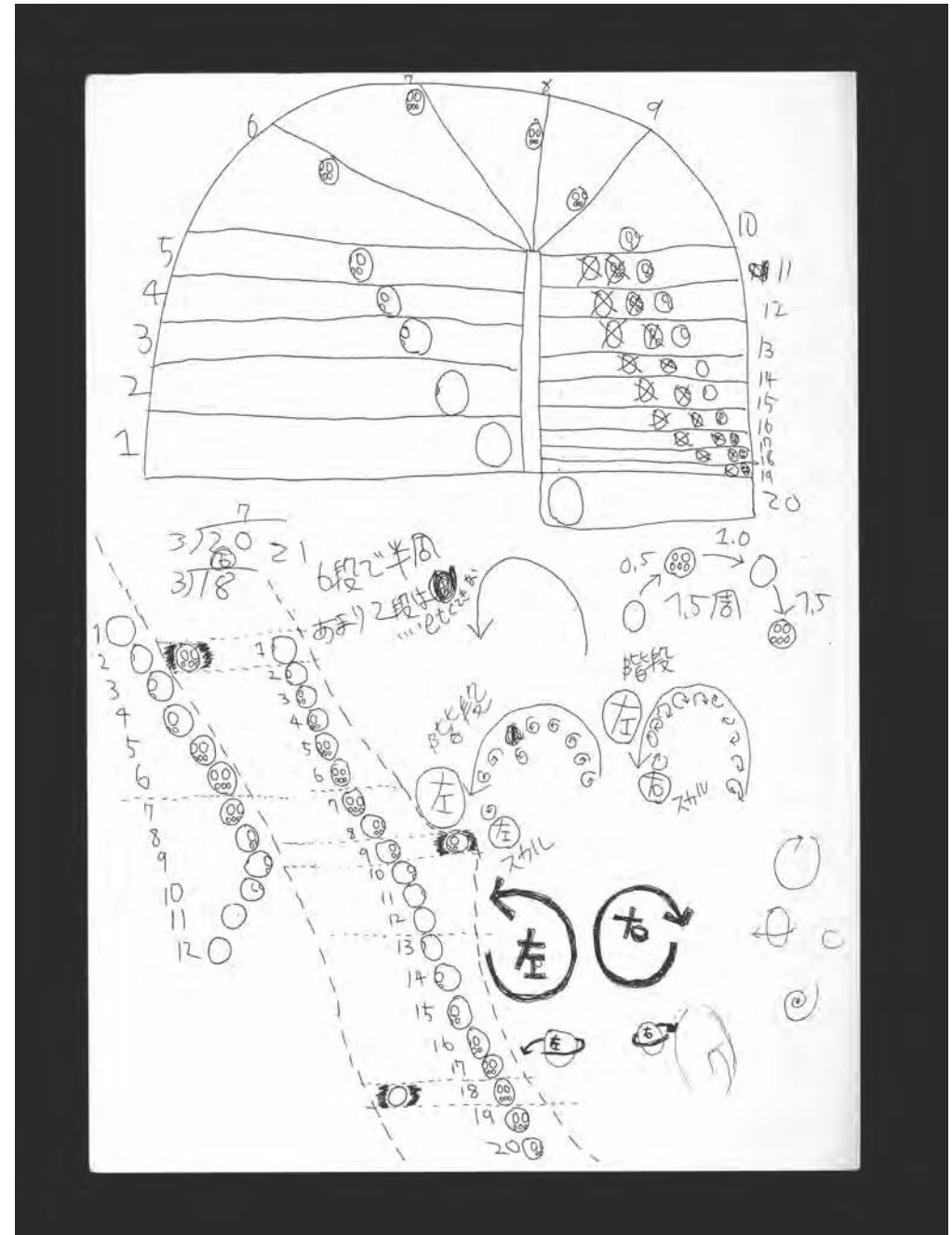


《フローターズスカルー小猿・おかっぱ・ゾンビー》

木

110×120×90 mm

2023



《螺旋階段とスカルの回転 ドローイング》

紙にペン

210×297 mm

2024

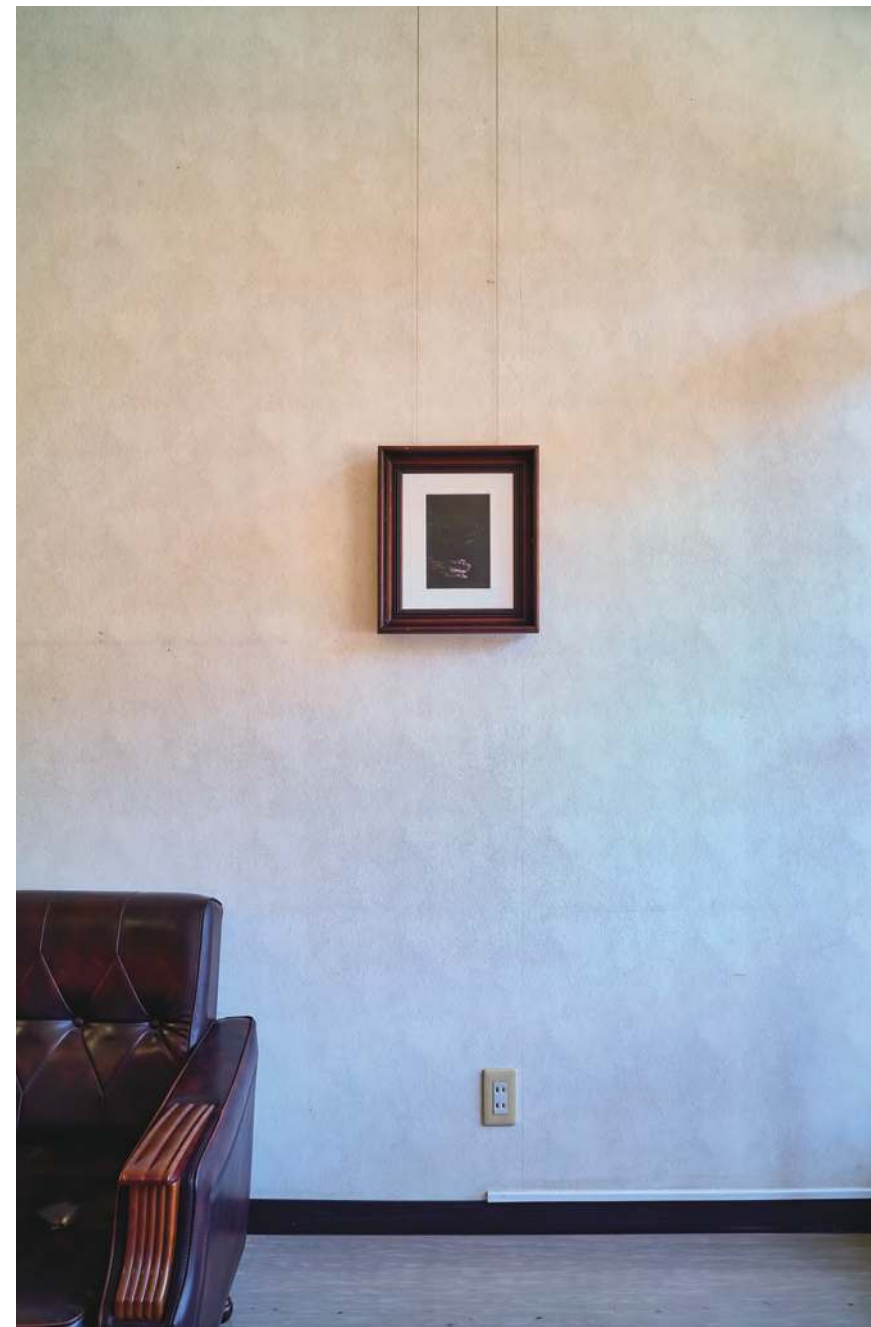


《習作—The Coming》

インスタレーション
Giclee-print、家具一式、拾得物(東御)

サイズ可変
(印刷サイズ:120×80-354×600 mm)

2024



《習作—The Coming》

インスタレーション
Giclee-print、家具一式、拾得物(東御)

サイズ可変
(印刷サイズ:120×80-354×600 mm)

2024



Giclee-print 340×240 mm 2021

《解剖学的観察
— Anatomical Observation — V-IV》



《和》 東御市八重原の土、シャモット サイズ可変 2024



《和》

東御市八重原の土、シャモット

サイズ可変

2024



《和》

東御市八重原の土、シャモット

サイズ可変

2024



《タイムカプセル》 ビデオ サイズ可変 2024



《タイムカプセル》よりビデオスタイル ビデオ サイズ可変 2024



《タイムカプセル》

ビデオ

サイズ可変

2024



《あなたの海を探して》

単管、ターポリン、紐

H1700×W1910×D60 mm

2024



《北御牧考—千曲ソナチネ》

ミクストメディア

サイズ可変

2024



《北御牧考—千曲ソナチネ》

ミクストメディア

サイズ可変

2024



《北御牧考—千曲ソナチネ》

ミクストメディア

サイズ可変

2024



《あなたの海を探して》

単管、ターポリン、紐

H1900×W1200×D50 mm

2024

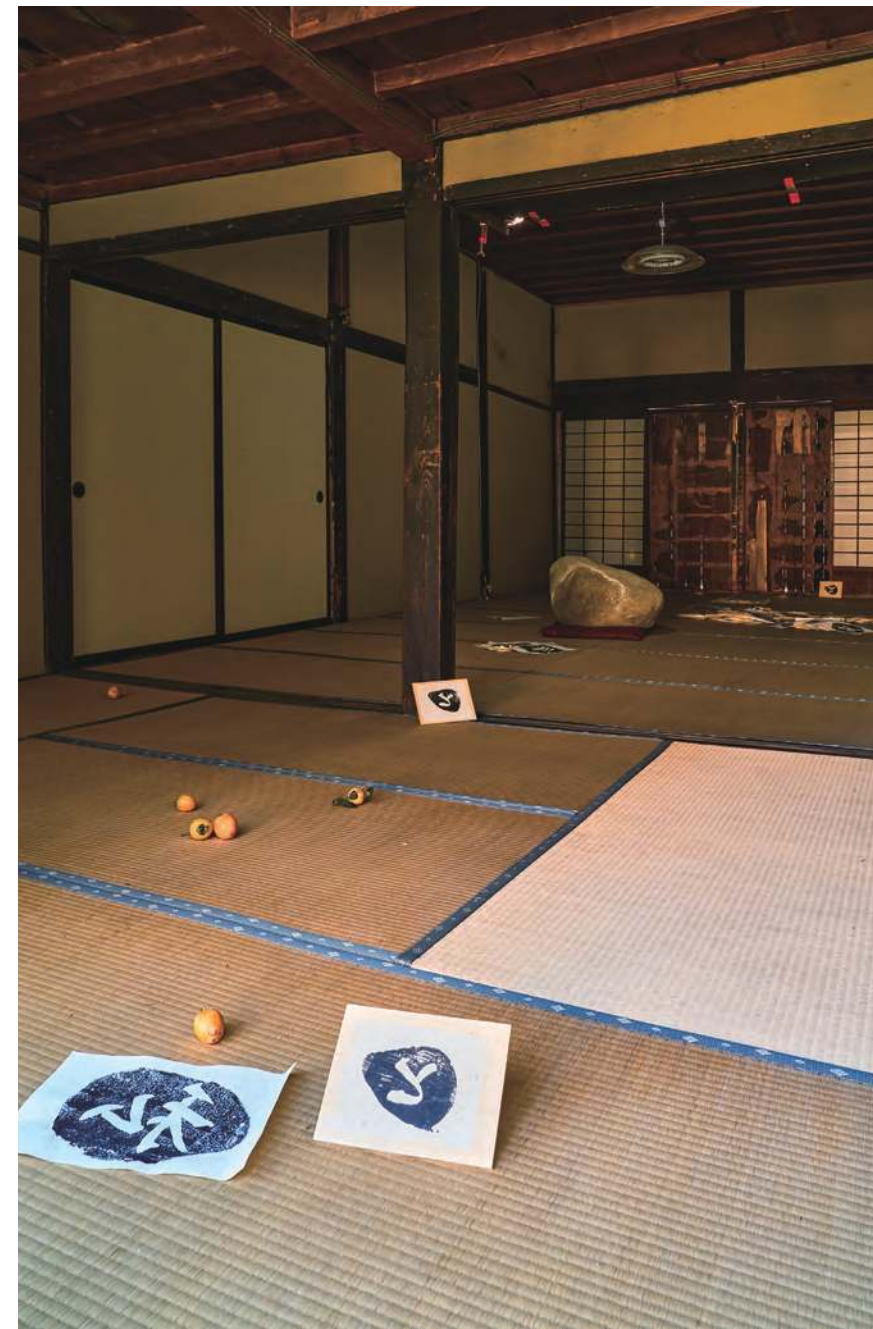


《私》

石、和紙、垂木

サイズ可変

2024



《私》

石、和紙、垂木

サイズ可変

2024



《私》

石、和紙、垂木

サイズ可変

2024



《Honey works—三角標》

インスタレーション
蜂蜜、地層標本、テント、石 ほか

サイズ可変

2024



《Honey works—三角標》

インスタレーション
蜂蜜、地層標本、テント、石 ほか

サイズ可変

2024



《Honey works—三角標》

インスタレーション
蜂蜜、地層標本、テント、石 ほか

サイズ可変

2024



《器になるまで》

映像(14'00")、パフォーマンス

H1631×W2900 mm

2024



《器になるまで》

映像(14'00")、パフォーマンス

H1631×W2900 mm

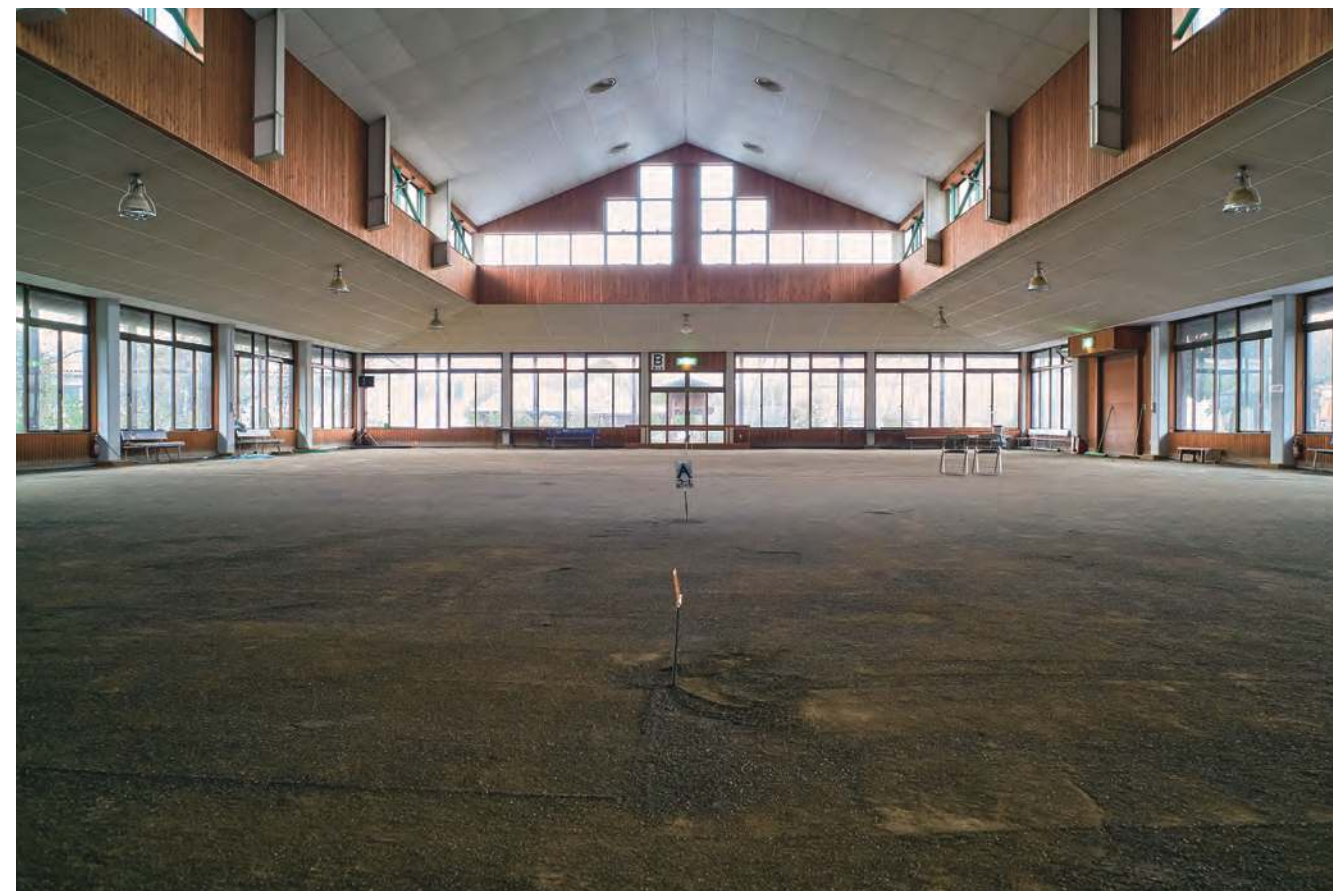
2024



《器になるまで》

パフォーマンス

2024



《せまき門》

鉄

220×100mm

2024



《せまき門》

鉄

220×100mm

2024



《せまき門》

鉄

220×100mm

2024

東御市ワークショップ
「インスタレーションって何？
組み合わせてみよう！」

日程：2024年10月31日[木]、11月1日[金]
部活時間(放課後の2時)
会場：東御市立北御牧中学校美術室

講師：
赤松あゆ(大学院油画第2研究室修士2年)、
津田弘人(大学院油画第2研究室修士1年)

受講者：
東御市立北御牧中学校 美術部員のみなさん(8名)

右頁図版：
1-4=ワークショップ1日目の様子、受講者作品
5-7=ワークショップ2日目の様子、受講者作品

本ワークショップでは中学生を対象とし、現代アート分野の中で現在主流であるインスタレーション表現(空間を使用した芸術表現)の紹介と簡単な制作講評を実施しました。講師として油画第2研究室の赤松あゆさん(修士2年)がインストラクターとして担当しました。また、アシスタントインストラクターとして、同じ研究室の津田弘人さん(修士1年)もサポートに加わりました。

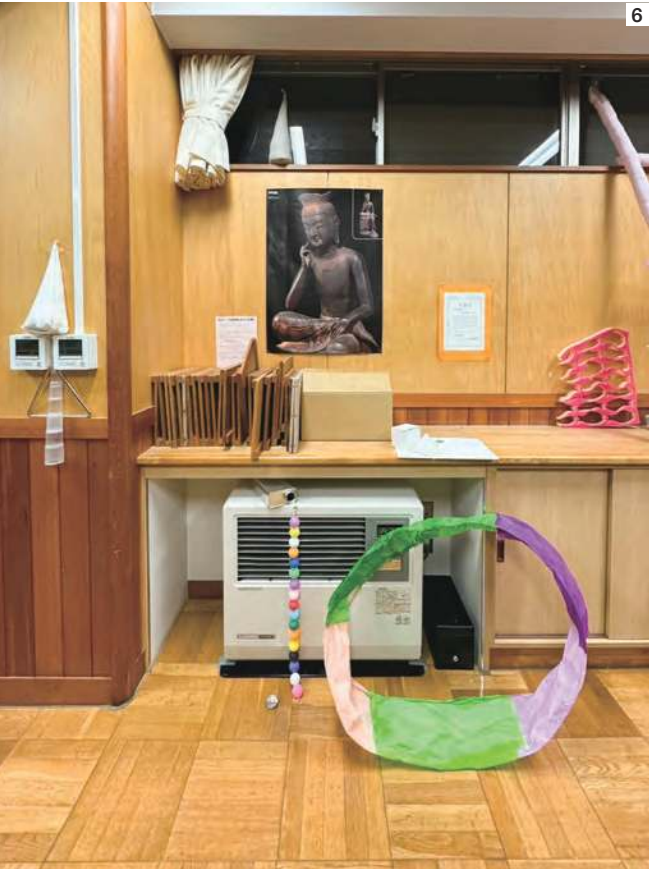
普段、絵画や彫刻以外のアートに接する機会のない中学生のみなさんに向けて、インスタレーション表現の考え方を指導することは容易なことではありません。今回担当した赤松さんと津田さんは普段の制作でインスタレーション表現を主とする学生です。今回のワークショップは赤松さん自身が普段行なっていることを追体験してもらうものとなり「表現の楽しさと可能性をシンプルに伝えたい」という彼女の思いが込められたものとなりました。

事前に1日、東御市立北御牧中学校美術部の佐野悠斗先生(梅野記念絵画館/学芸員)にご案内いただき打ち合わせをさせていただきました。普段使用している美術室、机や絵の具などを確認し、また素材として使おうとしている図書を赤松さん自身が図書館にて選定する、などの作業を行いました。

1日目は各自机の上を舞台に、用意した図書を支持体とし、赤松さん用意の日用品や美術室の備品を小道具として、組み合わせを考えていきました。終了後に簡単な講評を行いました。

2日目は各自テーマを設定。美術室周辺の任意の場所を舞台に、赤松さん用意の大型オブジェクトと各自用意した私物を小道具として組み合わせるインスタレーション作品を制作。最後に講評を行いました。

主催者側としてもとっても楽しかったです！皆さんのワクワクした気持ちが伝わって、思いもよらない発想が私にとってすごく刺激になりました！また、講評会では意図を言葉にするのが皆さん上手で素晴らしかったです。貴重な体験をありがとうございました。(コメント：赤松あゆ)



鑄金ワークショップ

日程：2024年11月3日〔日〕 10:30-12:30

会場：ゆうゆうアリーナ

講師：

岩下みのり(大学院工芸第5研究室修士1年)、
河崎海斗(大学院工芸第5研究室修士1年)、
大堀珠美(大学院工芸第6研究室修士1年)

受講者：東御市一般市民の方々(4名)

右頁図版：

1, 2=事前リサーチの様子

3-6=ワークショップ当日の様子

7=東京藝大での作業の様子

私たち工芸科鑄金研究室は、昨年までの「天空の芸術祭」では作品展示及びワークショップを催してきました。しかし、今年度はその方向性を変えて鑄金ワークショップのみに絞り込み、東御で鑄金を制作するための「東御の砂と粘土」をリサーチすることから始めました。鑄金とは、金属を溶解しその溶けたサラサラの金属を型に流し込むことで金属造形していくことをいいます。そこで使う鑄型は基本的に「耐火度のある砂を粘土で固める」ことで成形していきます。

まずは、ワーキンググループの方々に協力いただき、東御市で鑄型に適するであろう「砂」や「粘土」を何種類か採取しました。その採取した「砂」・「粘土」を東京藝大鑄金研究室に持ち帰り、何回にも渡り様々な配合で鑄造実験を行いました。そして、やっと鑄造ができる砂の配合が確認できた上で、ワークショップの内容をどのようにしていくかを修士の河崎くん・大堀さん・岩下さんの3人が話し合いながら決めていきました。

当日のワークショップでは、参加者にワックスの塊を渡しその表面に模様を彫ってもらい、東御で採取した砂にそのワックスから彫ってもらった模様を写し取り、最終的にその模様を鑄造でアルミに移し替えます。金属になった「アルミ鑄物のスタンプ」で色々な色の絵の具を使いながらTシャツにスタンプして、オリジナル絵柄のTシャツを作ってもらおうワークショップを行いました。

鑄造する金属は東御市で消費された飲み物のアルミ缶を溶かし、それを鑄造することでリサイクルし、社会に出たゴミを極力無くす意味も含まれます。「砂と粘土」は他の地域では採取できない東御固有のもので、この地域が持つ材料を使いながら、東御市民の方々や他県出身の学生がワークショップで交流することで新たな座標を探れたのではないかと考えています。そして、東御市と油画第2・第5研究室と工芸科鑄金研究室の三者のグループが行う意義は学生のコメントからも大きく読み取れてきます。

天空の芸術祭での作品の多くが、作者がまず東御市を訪問し、そこで見た風景や経験を出発点として制作されていた点が興味深かったです。大雑把な表現になってしまいますが、工芸科だとまず作品の内容を決めて、途中からそれらに合わせて展示計画を立てることが多いように思います。以前、西洋の庭は自然を秩序的に整理するものに対し、日本の庭園は元の地形を活かして変化の余地を残すといった内容の文章を読んだことがあります。その時私は、作った人間はバラバラなんだからそこまで大きく括れるものかと疑問に思いましたが、今回の件で確かに同じグループの中で考え方の傾向が似ることもあるのだろうと得心がきました。今回はワークショップのみで展示はせず、一方的に作品を鑑賞させてもらうのみでしたが、それがかえって自分と自分の所属する環境を客観視することができたのが良かったです。(コメント：岩下みのり)

ワークショップを通じて、多くの学びや発見がありました。住む地域や年齢によって、鑄造や金属に対する感じ方が異なることを実感し、作品の見せ方について新たな視点を得ることができました。今回の鑄造方法は、普段私が使用している手法や素材とは異なっており、そこから多くを学びました。同時に、普段扱っている方法や素材を取り入れてワークショップを行うことで、参加者が作品をどのように捉えるか、さらに新しい発見や参考になる視点が得られるのではないかと感じました。(コメント：河崎海斗)

アルミを使ったワークショップでは、先生方や同期と協力しながら取り組み、一つの作品を成功させる達成感を味わいました。また、お客様と直接コミュニケーションをとりながらイベントを行えたことで、作品を通じた交流の楽しさを実感しました。さらに、油画専攻の方々との作品やコンセプトに触れる機会を得て、新たな視点や創作の幅を広げる貴重な経験となりました。この活動全体を通じて、学びと感動に満ちた充実した時間を過ごせました。(コメント：大堀珠美)



北御牧小・中学生作品展
「みんなの作品展」

日程：2024年10月5日[土]—10月30日[水]（26日間）

会場：北御牧庁舎1階市民交流サロン

概要：

東御市北御牧地区にある北御牧小学校の1～6年生と北御牧中学校の1,2年生のみなさんが、それぞれ思い思いのテーマで制作した作品を北御牧庁舎1階市民交流サロンにて展示。

出品点数：124点（小学生99点、中学生25点）

来場者数：332人



東京藝術大学と東御市による域学連携事業

天空の芸術祭 2024 座標を探る

展覧会

概要 2024年10月19日[土]—11月9日[土]
土日祝のみ開催 | 10:00-17:00 | 観覧料無料

会場 北御牧庁舎
北御牧小学校前地下通路
北御牧地区商工会館
芸術むら公園
真田土建倉庫2階
みまき苑
観音寺
天空ミュージアム
八重原土地改良区事務所
ゆうゆうアリーナ

主催 天空の芸術祭WG

共催 東御市、東京藝術大学

企画 東京藝術大学大学院美術研究科
絵画専攻油画第2研究室、油画第5研究室、工芸専攻鍍金研究室

問合せ先 天空の芸術祭WG事務局
(東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係)
〒389-0592 東御市 281-2 TEL: 0268-71-0670
MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp

東京藝術大学と東御市による域学連携事業

天空の芸術祭 2024 座標を探る

記録集

発行 天空の芸術祭2024WG

発行日 2025年3月25日

監修 谷岡靖則、西村雄輔、小瀬村真美

撮影 小瀬村真美、唐貫虹 (pp.18-20)

編集 伊東五津美、五十川祐、堀田光彦

デザイン 林頌介

印刷 株式会社グラフィック

問合せ先 天空の芸術祭WG事務局
(東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係)
〒389-0592 東御市 281-2 TEL: 0268-71-0670
MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp

本書の無断転写、転載、複製は
著作権法上の例外を除き、禁じられています。

© Tokyo University of the Arts 2024

Printed in Japan.

謝辞

本事業の実施にあたり、関係者の方々、または以下の方々に
多大なご協力とご支援を賜りました。ここに暑く御礼申し上げます。

天空の芸術祭WG事務局

協賛	日立Astemo(株) 東御工場	竹内工業(株)
	荻原雅史建築設計事務所	(株) 竹花組東御支店
	コトヒラ工業(株)	日測設計(株)
	(株) ミマキエンジニアリング	(株) 日東ボタン
	(株) マナテック上田支店	早武商店
	ミマキ電子部品(株)	(有) 水科設備
	(株) アイエスパイピング	社会福祉法人みまき福祉会
	(株) 荒井設備	上田信用金庫とうみ支店
	(株) ABC建設	(株) 白倉ファーム
	(有) 御菓子処花岡	信州電機(株)
	川西赤十字病院	(有) テールマウンテン
	農事組合法人北御牧村味の研究会	八十二銀行田中支店
	(株) 塩沢産業	(株) 信州東御市振興公社

東京藝術大学と東御市による域学連携事業

天空の芸術祭 2024 座標を探る

展覧会

概要 2024年10月19日[土]—11月9日[土]
土日祝のみ開催 | 10:00-17:00 | 観覧料無料

会場 北御牧庁舎

北御牧小学校前地下通路

北御牧地区商工会館

芸術むら公園

真田土建倉庫2階

みまき苑

観音寺

天空ミュージアム

八重原土地改良区事務所

ゆうゆうアリーナ

主催 天空の芸術祭 WG

共催 東御市、東京藝術大学

企画 東京藝術大学大学院美術研究科

絵画専攻油画第2研究室、油画第5研究室、工芸専攻鍍金研究室

問合せ先 天空の芸術祭 WG事務局

(東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係)

〒389-0592 東御市東 281-2 TEL: 0268-71-0670

MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp

謝辞

本事業の実施にあたり、関係者の方々、または以下の方々に

多大な協力とご支援を賜りました。ここに暑く御礼申し上げます。

天空の芸術祭 WG事務局

協賛	日立 Astemo(株) 東御工場	竹内工業(株)
	荻原雅史建築設計事務所	(株) 竹花組東御支店
	コトヒラ工業(株)	日測設計(株)
	(株) ミマキエンジニアリング	(株) 日東ゴタン
	(株) マナテック上田支店	早武商店
	ミマキ電子部品(株)	(有) 水科設備
	(株) アイエスバイビング	社会福祉法人みまき福祉会
	(株) 荒井設備	上田信用金庫とうみ支店
	(株) ABC建設	(株) 白倉ファーム
	(有) 御菓子処花岡	信州電機(株)
	川西赤十字病院	(有) テールマウンテン
	農事組合法人北御牧村味の研究会	八十二銀行田中支店
	(株) 塩沢産業	(株) 信州東御市振興公社

東京藝術大学と東御市による域学連携事業

天空の芸術祭 2024 座標を探る

記録集

発行 天空の芸術祭2024WG

発行日 2025年3月25日

監修 谷岡靖則、西村雄輔、小瀬村真美

撮影 小瀬村真美、唐貫虹(pp.18-20)

編集 伊東五津美、五十川祐、堀田光彦

デザイン 林頌介

印刷 株式会社グラフィック

問合せ先 天空の芸術祭 WG事務局

(東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係)

〒389-0592 東御市東 281-2 TEL: 0268-71-0670

MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp

本書の無断転写、転載、複製は

著作権法上の例外を除き、禁じられています。

© Tokyo University of the Arts 2024

Printed in Japan.

な視点が増えた実感がありました。見えるものが広がり、そのことがこれまでの芸術祭を経て蓄積された視点と響き合い、また新たな価値を見出すことにつながりました。

執せず広がりを持たせる者などそれぞれに様々なグラデーションが生まれ、良い意味で自然体で取り組まれていたと感じます。

を軽く作品のみを置いていたり、また1日みのワークショップがあったり、年間を通して連続的に行なわれるワークショップがあったりするなど、幅の広い関わり方、様々な関わりの深度を持っていくことができると、今を生きる時代を反映し地に足のついた芸術祭になるのではないかと考えます。



り事情でお借りすることが出来なくなり限られた候補地の中で、藝大の皆さんも選定に苦労されたかと思うところです。

元としては、大歓迎するところです。

意識の向上に必ずや役立つものと思うところです。

た。

北御牧小・中学生作品展
「みんなの作品展」

日程：2024年10月5日[土]—10月30日[水]（26日間）

会場：北御牧庁舎1階市民交流サロン

—

概要：

東御市北御牧地区にある北御牧小学校の1～6年生と北御牧中学校の1, 2年生のみなさんが、それぞれ思いのテーマで制作した作品を北御牧庁舎1階市民交流サロンにて展示。

—

出品点数：124点（小学生99点、中学生25点）

来場者数：332人



なりました。

関わり方、様々な関わり方の深度を持っていくことができると、今を生きる時代を反映し地に足のついた芸術祭になるのではないかと考えます。



北御牧小・中学生作品展

「みんなの作品展」

日程：2024年10月5日[土]—10月30日[水]（26日間）

会場：北御牧庁舎1階市民交流サロン

概要：

東御市北御牧地区にある北御牧小学校の1～6年生と北御牧中学校の1,2年生のみなさんが、それぞれ思いのテーマで制作した作品を北御牧庁舎1階市民交流サロンにて展示。

出品点数：124点（小学生99点、中学生25点）

来場者数：332人



東京藝術大学と東御市による域学連携事業
 天空の芸術祭 2024 座標を探る
 展覧会

概要 2024年10月19日[土]—11月9日[土]
 土日祝のみ開催 | 10:00-17:00 | 観覧料無料

会場 北御牧庁舎
 北御牧小学校前地下通路
 北御牧地区商工会館
 芸術むら公園
 真田土建倉庫2階
 みまき苑
 観音寺
 天空ミュージアム
 八重原土地改良区事務所
 ゆうゆうアリーナ

主催 天空の芸術祭WG
 共催 東御市、東京藝術大学
 企画 東京藝術大学大学院美術研究科
 絵画専攻油画第2研究室、油画第5研究室、工芸専攻鍍金研究室
 問合せ先 天空の芸術祭WG事務局
 （東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係）
 〒389-0592 東御市県281-2 TEL: 0268-71-0670
 MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp

謝辞

本事業の実施にあたり、関係者の方々、または以下の方々に多大なご協力とご支援を賜りました。ここに暑く御礼申し上げます。

天空の芸術祭WG事務局

協賛	日立Astemo(株)東御工場	竹内工業(株)
	荻原雅史建築設計事務所	(株)竹花組東御支店
	コトヒラ工業(株)	日測設計(株)
	(株)ミマキエンジニアリング	(株)日東ボタン
	(株)マナテック上田支店	早武商店
	ミマキ電子部品(株)	(有)水科設備
	(株)アイエスパイピング	社会福祉法人みまき福祉会
	(株)荒井設備	上田信用金庫とうみ支店
	(株)ABC建設	(株)白倉ファーム
	(有)御菓子処花岡	信州電機(株)
	川西赤十字病院	(有)テールマウンテン
	農事組合法人北御牧村味の研究会	八十二銀行田中支店
	(株)塩沢産業	(株)信州東御市振興公社

東京藝術大学と東御市による域学連携事業
 天空の芸術祭 2024 座標を探る
 記録集

発行 天空の芸術祭 2024 WG
 発行日 2025年3月25日発行

監修 谷岡靖則、西村雄輔、小瀬村真美
 撮影 小瀬村真美、唐貫虹(pp.18-20)
 編集 伊東五津美、五十川祐、堀田光彦
 デザイン 林頌介
 印刷 株式会社グラフィック
 問合せ先 天空の芸術祭WG事務局
 （東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係）
 〒389-0592 東御市県281-2 TEL: 0268-71-0670
 MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp

本書の無断転写、転載、複製は
 著作権法上の例外を除き、禁じられています。

© Tokyo University of the Arts 2024
 Printed in Japan.

座標を探る

東京藝術大学 絵画専攻(油画第2研究室・第5研究室)

工芸専攻(鍔金研究室)



ごあいさつ

東御市と東京藝術大学そして地域による域学連携事業として28回目を迎えた天空の芸術祭は無事終了することが出来ました。

地域の皆様をはじめ、多くの御身助のご協力賜物と厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

4月からの会場候補地のリサーチ、宿舎の確保、WGの役割、主催者は？共催者は？経費の支出は？等々課題が山積しておりましたが、一ひとつ課題の整理をしてみました。展示会場となる候補地も様々な事情でお借りすることが出来なくなり限られた候補地の中で、藝大の皆さんも選定に苦勞されたかと思っております。

東京藝大の2層目の屋目の下見が6月にあり、それぞれ候補地などを視察しました。新たに油画第2研究室の参加もいただきました。昨年末までの油画第5研究室や工芸専攻鍔金研究室の皆さんと参加作家も多くなり地元として、大歓迎するところでした。私たちが地域の協力者も多く、藝大生の皆さんと交流するところが出来、人と人がアートを通じてつながり、地域に住む私たちが外から来たところの東御市に来られる人々の新たなふれあいが、この地域の活性化と地域の文化醸成の向上に必ずや役立つものと思っております。

中学校の皆さんとはワークショップも開催され、茶会も深まつたところでです。また北御牧の中の児童・生徒さんの作品展も同時開催しました。

小学校は全校生徒の197名、中学校の1年、2年生59名の作品が所獲しと並びました。普光学校へは中々行く機会も無い地域の方などから一堂に展示され、それを鑑賞出来る事に大変感謝の言葉もいただきました。

最後になりましたが、多くのご協力者、ご賛同いただきました企業の皆様にも厚く感謝申し上げます。

坂原輝久[天空の芸術祭2024WG代表]

天空の芸術祭2024

座標を探る

東京藝術大学と東御市による域学連携事業

域学連携事業

ARCHIVES

記録集

天空の芸術祭 2024 座標を探る



新たな視点が増えた美感がありました。見えるものが広がり、そのことがこれまでの芸術祭を経て蓄積された視点と響き合い、また新たな価値を見出すことにつながりました。

本年度は本学の油画第2、第5研究室、工芸科鍔金の3つの研究室での研究室の関わりだったところにもひとつこの研究室が加わったことにより、新しい物語が生まれる可能性を秘めています。

過去に行なったことが過ぎ去る一週性のものでも新しく新しく見える、だからそれ以前行なわれた場所に接続してみるなどのがあります。場所との関わり方では、その場所でのリサーチワークに軸を置き、場所に関せず広がりを持たせる者などそれぞれに様々なアイデアが生まれ、良い意味で自然体で取り組まれていくと感じます。

私たちの作品制作の行為が、これらの場所にとつて、耕されて空気が入り、深層の上があらわになる天地返しとなり、いつかの芽吹きを待つようなものとなるのではないかと願います。

本芸術祭は、多くの地域の皆の支援や協力のもとに実施されてきました。今後、リサーチワークでレクサリティ、2年間関わってみたい、いつかの芽吹きを待つようなものとなるのではないかと願います。

地域に育まれてきた文化とともに、小さくとも切実な表現が、持続的な可能性をもって、美術の分野に持ち出す様々な表現がなされていくことも視野に、新たな展開を目指していきます。



東京藝術大学と東御市による域学連携事業

天空の芸術祭 2024 座標を探る

展覧会		
概要	2024年10月19日[土]—11月9日[土] <p>土日祝のみ開催 10:00-17:00 観覧料無料</p>	東京藝術大学と東御市による域学連携事業 <p>天空の芸術祭 2024 座標を探る</p> <p>記録集</p>
会場	北御牧庁舎 <p>北御牧小学校前地下通路</p> <p>北御牧地区商工会館</p> <p>芸術むら公園</p> <p>真田土鐘倉庫2階</p> <p>みまき苑</p> <p>観音寺</p> <p>天空ミュージアム</p> <p>八重原土地改良区事務所</p> <p>ゆうゆうアリーナ</p>	発行 天空の芸術祭 2024 WG <p>発行日 2025年3月25日発行</p> <p>監修 谷岡靖則、西村雄輔、小瀬村真美</p> <p>撮影 小瀬村真美、唐貫虹 (pp.18-20)</p> <p>編集 伊東五津美、五十川祐、堀田光彦</p> <p>デザイン 林碩介</p> <p>印刷 株式会社グラフィック</p> <p>問合せ先 天空の芸術祭WG事務局 <p>(東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係)</p> <p>〒389-0592 東御市東281-2 TEL: 0268-71-0670</p> <p>MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp</p></p>
主催	天空の芸術祭WG	
共催	東御市、東京藝術大学	
企画	東京藝術大学大学院美術研究科 <p>絵画専攻油画第2研究室、油画第5研究室、工芸専攻鍔金研究室</p>	本書の無断転写、転載、複製は <p>著作権法上の例外を除き、禁じられています。</p>
問合せ先	天空の芸術祭WG事務局 <p>(東御市役所企画振興部文化・スポーツ振興課文化係)</p> <p>〒389-0592 東御市東281-2 TEL: 0268-71-0670</p> <p>MAIL: bunka-sports@city.tomi.nagano.jp</p>	© Tokyo University of the Arts 2024 <p>Printed in Japan.</p>

謝辞

本事業の実施にあたり、関係者の方々、または以下の方々に多大なご協力とご支援を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

天空の芸術祭WG事務局

協賛	日立Astemo(株)東御工場 <p>森原雅史建築設計事務所</p> <p>コトハラ工業(株)</p> <p>(株)ミキエンジニアリング</p> <p>(株)マナテック上田支店</p> <p>ミキ電子部品(株)</p> <p>(株)アイエスハイビング</p> <p>(株)荒井設備</p> <p>(株)ABC建設</p> <p>(有)御菓子処花園</p> <p>川西赤十字病院</p> <p>農事組合法人北御牧村味の研究会</p> <p>(株)塩沢産業</p>	竹内工業(株) <p>(株)竹花組東御支店</p> <p>日測設計(株)</p> <p>(株)日東ボタン</p> <p>早武商店</p> <p>(有)水科設備</p> <p>社会福祉法人みまき福祉会</p> <p>上田信用金庫とうみ支店</p> <p>(株)白倉ファーム</p> <p>信州電機(株)</p> <p>(有)テールマウンテン</p> <p>八十二銀行田中支店</p> <p>(株)信州東御市振興公社</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



北御牧庁舎



みまき苑



北御牧小学校前地下通路



観音寺



北御牧商工会館



天空ミュージアム



芸術むら公園



芸術むら公園 八重原土地改良区事務所



真田土建倉庫2階



ゆうゆうアリーナ

判例	
【作品記号】	<ul style="list-style-type: none"> 作家名 Artist Name (作品タイトル) 素材 サイズ 制作年
会場名	<p>作品解説文</p>

【A】 北御牧庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 五十川祐 ISOGAWA Yu (あなたの海を探して) ターポリン、紐 H1830mm×W2450×D42 mm 2024
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

本作は東御市内の3ヶ所に設置されている、海の写真を載せた看板作品である。写真は全て作家によって撮影されたもので、全て違う日時と場所で撮影されている。それはただそこにあるだけであって、あたかもずっと前からそこにあったように、こちらを見返す鏡のような存在となればしい。東御市を初めて訪れた時、なぜだか早くに目が覚めてしまった休日の早朝のような、高揚感ある静けさをこの町には感じた。リサーチを続けている間や東京へ帰還したあいつも引っこかっていたのは、山に囲まれた田畑の風景に隠れる微かな人の気配だった。その気配と交わるために、海の写真を置いてみることにした。

作品に使用する海の写真を集めています。ご協力いただける方はぜひ北御牧庁舎内のリサイクルコーナーに置いてある白いボックスに写真を投函してください。

【B】 北御牧小学校前地下通路	<ul style="list-style-type: none"> 伊東五津美 ITO Izumi (地底探索をするように山を眺める) 紙にインクジェットプリント 510×880 mm、890×1130 mm 2024
--------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

東御市にリサーチに来る度、自分が立っている場所の不確かさについて考えている。今見えている景色がいつできたのか、山が隆起していく様子を観察する事は可能なのか。人や物事が有する時間軸はそれぞれ異なり、その差異について膨大な時間を堆積した地層をみて思う事がある。大地が形成される時間軸——人類が観測できない「不確かさ」についてアプローチの方法を思索したい。その感覚を、未知なる感覚を探索するパーサビランスになぞり、自身の観測の行為そのものをここに提示したい。

【C-1】 北御牧商工会館	<ul style="list-style-type: none"> 若林岬 WAKABAYASHI Misaki (フローターズスカル-小猿・おっぱ・ゾンビ-) 木 110×120×90 mm 2023
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

フローターズのシリーズに登場するドクロ形のキャラクター。5本の円柱が顔面のパーツになっている。円柱はそれぞれ抜き差しが可能。他のフローターズスカルと交換して遊べる。

【C-2】 北御牧商工会館	<ul style="list-style-type: none"> 小瀬村真美 KOSEMURA Mami (習作-The Coming) Giclee-print、家具一式、拾得物(東御) サイズ可変(印刷サイズ:120×80 mm - 354×600 mm) 2024
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

東御市を初めて訪れました。山間のこの場所は山肌が近く、この場所に来ると常に何かが迫るような感覚をいつも感じます。崖が多い場所だからでしょうか。不意に視界が遮られ起伏を上がり下がりする足元は常に不安定さを感じます。そして、少し道を入り込むと静けさとすり鉢状の空間の中で籠るような感覚があります。私はこのような起伏のある場所が好きです。そして籠るような場所には舞台の片隅のような、ひんやりとして、でも観望な雰囲気を感じます。これは写真であって、ある日、ある時間のこの近辺の記録です。そして、ここにある家具はここで使われていたものや使われているもの。オブジェクトはこの近辺で拾得されたものです。これは東御での「ピクチャレスク」¹⁾のための序幕、習作です。

¹⁾ 18世紀イギリスでフランスのクロード・ロランという画家が空想で描いた風景画のような美しい風景を、クロード・グラスと名付けられた手鏡を手にも覗きながら山に行くウツガが大流行していたそうです。鏡に映る風景は左右が反転して、なんだか新鮮なものに見えてしょ?そしてさらにその鏡はちょっとセピア色に染められていて、より鮮やかに見えるようになっていたそうです。一面の描いた美しい風景を鏡に写したのですから、相対に無理のある遊びではありますが、「ピクチャレスク(絵画のような)と呼ばれるその遊びは私たちの日常と絵画の虚構とをたった。

【C-3】 北御牧商工会館	<ul style="list-style-type: none"> 小瀬村真美 KOSEMURA Mami (解剖学的観察-Anatomical Observation -V~ IV) Giclee-print 340×240 mm 2021
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

資料図版(翻録):
LICHEN PSORA rubiformis Antique Hand Col. Copper Engraving Print by John Edward Sowerby Botany. Published London. 1810
旧作より(解剖学的観察)と名付けられた植物画を元にした写真ドローイング作品を持ってきました。この3点は資料の図版(19世紀イギリスのシダ植物のみの植物図鑑)を参照しながら、日本の苔、シダ植物を撮影し、デジタル写真上でドローイングを重ねたものです。構図は元の図鑑に倣い、植物全体の状況が上部に、左下が一部のみ、右下が最も小さい単位の部分、となっています。中央下にはその植物の学名が載せられています。元々銅版で擦られたものなので、画面の右上、中途半端な位置に銅版のプレート番号が入っています。写真と絵の中間のような表現を模索しています。

【C-4】 北御牧商工会館	<ul style="list-style-type: none"> 于韻碩 YU Yanshuo (和) 東御市八重原の土、シャモット サイズ可変 2024
------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

私は八重原台地からの眺めを見たとき、まるで時間が静止したかのように感じました。微風な風の音が心を和ませ、自然の中で物語が思い浮かぶ瞬間を大切にしています。一步一步踏みしめるたびに、土地とのつながりが深く感じ、心が癒し合う温もりが広がってきました。この八重原台地の強粘土を用いて、風化した土の質感や自然光が当たったときの微妙な色合いを取り入れて制作しました。不完全さや儚さの中に潜む美しさを見出し、作品を上から底まで、また遠くから見てもらうことで、非現実と現実が交錯し、自然の力や折りが込められていることを実感できるよう掛けています。また、私は量特有の温もりや静けさの中に作品を展示しており、縄文時代から現代にかけての「和」の精神を感じ取ってみたいと願っています。

【C-5】 北御牧商工会館	<ul style="list-style-type: none"> 清水花 SHIMIZU Hana (タイムカプセル) ビデオ サイズ可変 2024
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

東御市で撮影された映像を再編集したサウンド・フッター

【D】 芸術むら公園	<ul style="list-style-type: none"> 五十川祐 ISOGAWA Yu (あなたの海を探して) 単管、ターポリン、紐 H1700mm×W1910mm×D60 mm 2024
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【E】 真田土建倉庫2階	<ul style="list-style-type: none"> 唐貫虹 TANG Guanhong (北御牧考—千曲ソナチネ) ミクストメディア サイズ可変 2024
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

私はしばらく旧北御牧村の布下にある真田土建倉庫を拠点として滞在し、周りの自然と人文を考察した。作品は1階の屋外と2階にあるサイトを用いて、合計三つのスペースを利用して設置した。これらの場所はソナチネの三つの章になり、それぞれで異なる体験を鑑賞者に与える。

第一章:天空の集会場(1階屋外)
山から間伐して来た丸太と竹を用いて、道端で小さな集会所を設置した。人を寄せるための場である。来場者はここに集い、空、遠閑山、さらに川の向こうにある町を眺めながら、お話を休憩をする場所とする。集会所の中心に篝火を焚く鉄炉を置き、寒い日にも暖かくて快い場を設けた。

第二章:川の奏鳴曲(倉庫2階)
川の水は空に蒸発し、そして凝結し、雨になって降ってくる。滞在制作の間に雨の日があった、倉庫の2階に雨濡れがちよっぴり伝わっている場所は幾つがあった。これは川の意志の見立てとして、濡れる場所の下に地元の人々が使われる水入れの容器を置き、千曲川と鹿曲川の流れを再現し、その中には川の各所から採取してきた水を注いでいる。川に沿って各所に棲息している人々の意識が含まれ、居場所の意味が働く場所である。

第三章:高所にある茶室(倉庫2階の高所)
倉庫の2階の高いところに巴風半の畳を置き、茶室を設置した。この畳は北御牧のどこかにある古民家を解体して残したものである。畳裏に畳を揃える角が書かれてある。その位置状況を復元している。茶室から作品を鳥瞰することはできる。高所で自分の立ち位置を確かめ、そして落ち着いてお茶を飲み場である。山と川の間に、人間は生息している。この作品は北御牧をベースとして滞在制作の結果となる。山、水、そしてここに代々積みついでいる人々を中心に作品は千曲川と鹿曲川の合流点にある北御牧村から展開して、人間社会と場所が同調するソナチネに転換し、遠方への交信になり、川の水と同じように、ここにある意思と意志をさらに高く遠いところに連れていく。

【F】 みまき苑	<ul style="list-style-type: none"> 五十川祐 ISOGAWA Yu (あなたの海を探して) 単管、ターポリン、紐 H1900mm×W1200mm×D50 mm 2024
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【G】 観音寺	<ul style="list-style-type: none"> 山中優太 YAMANAKA Yuta (私) 石、和紙、重木 サイズ可変 2024
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

本作品は、観音寺の表、裏、堂内の三ヶ所で展示を行っています。観音寺の中の様子は裏のガラス戸から見ることができます。一つの場所で多角的に展示をすることによって私自身の「心象風景」を可視化しようとしてきました。初めて、観音寺を訪ねた際に「子供たちがかけっこをして遊んでいる」情景が思い浮かびました。しかし、お寺の裏に行くど石がいくつも落ちており、子供たちが遊ぶには危険な状態でした。お寺の裏の整備をすることが作品になるような制作をしたいと考え、石をいくつか持ち帰り作品プランを考えていました。

僕の母親は書道教室の先生をしており、幼い頃から母の字を見る機会が多く、作業部屋に入ると生徒のお手本用に書かれた習字が床にいっぱい並んでいました。この、母親の字が並んでいる情景を作品にできないかと考えていました。本展示では、この2つの情景を掛け合わせた作品をつくることにしました。お寺の裏に並べられた石は、観音寺の石を加工して母の字を彫っています。表と堂内に展示した和紙の字は裏の石を石版とし、版画にして展示をしています。観音寺を訪れ思い起こされた僕の記憶を可視化することで、心象風景の表現を試みました。

【H】 天空ミュージアム	<ul style="list-style-type: none"> 西村雄輔 NISHIMURA Yusuke (Honey works-三角標) インスタレーション、蜂蜜、地層標本、テント、石ほか サイズ可変 2024
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

この作品は東御の地と別の場所を結ぶ意識のその先を見せるものである。ここから別の場所を見ることが、この地をより意識するような作用がはたらく。天空ミュージアム前の広場に設置したテントの中には周辺から採取した土を地層標本のようにしたものも立っている。これは、私たちが今立っているこの地、この場所を示している。テントは以前測量に用いられていた三角標(緑標)に見立てている。建物の外壁に取り付けられた石は、ここから離れた場所から採取したものである。いくつかの場所から採取した石たちとテント内の地層標本という観測点を結ぶ線は、2点を結ぶ直線だけでなく3点を結ぶ3角形を描くことで互いの位置を確かにする。それらの点は、場所だけでなく時間軸を描き過去と未来を今につなぐ。建物内にある蜂蜜の台は、自分のアイデンティティを示す物質として、また現在だけでなく過去やこれからのことを示すものとして存在している。それは外壁の石とは異なり触れることができない。蜂蜜と同じように建物の中にあるテントの中は見えず、何かわからないものとしたたずむ。

意識を広げる。地に触れる。それは表面の土だけでなく、地層の奥へ奥へ意識は伸びて、マントルの対流に乗り、この星自体、そして宇宙へ、限定された「ここ」という場所が発端であっても、巨しく広く、根本的なものとなつていく。場を通して地とつながる。私たちの「場」への行為に対して、地は変化の形でこたえる。地の反応によって、私たちも次の行為を考える。言葉によらないこれらの対話が、場を通して「地との対話」である。

【I】 芸術むら公園 八重原土地改良区事務所	<ul style="list-style-type: none"> 網野風沙 AMINO Nagisa (器になるまで) 映像(14'00")、パフォーマンス H1631×W2900 mm 2024
------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

屋外にて取材を行い作品イメージを膨らませていた最中、突然の大雨に室内へ逃げ込んだ。雨に慣れを感じると共に、「どうにもならないこと」へ怒りを抱くことの虚しさを感じることとなった。そこから、私の「状態」を変化させることで、いかなる天気を受け入れられるようにしていきたいと考えた。そこから「外で寝そべる」というフラクティスを行うこととなった。まずは寝そべることから始まる。そこから日々変化していく(かもしれない)私なりの実験としてパフォーマンスを展開していく。もしかすると天気から始まり別のごとく天気を取られることもあるだろう。この東御という地を前にした時の私の変化に対し、私自身が自覚し、それに呼応するように体が動くのを待つだけだ。

【J】 ゆうゆうアリーナ	<ul style="list-style-type: none"> 津田弘人 TSUDA Hiroto (せまき門) 鉄 220×100 mm 2024
-----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

ゲートボールは第1ゲートにボールを通過することでゲームに参加することができます。通過できない場合、相手のチームに渡ります。そこで、ゲートボール場Aコートの第1ゲートにボールがほぼ通ることできないものに変更します。これによって一見何も変わらないゲートボール場がその変更によってぱったりと誰も参加することも入ることもできない空間となります。

作品出品		ワークショップ実施
------	--	-----------



五十川祐 ISOGAWA Yu
[油画第2研究室 教育研究助手]



赤松あゆ AKAMATSU Ayu
[油画第2研究室(修士2年)]



伊東五津美 ITO Izumi
[油画第5研究室 教育研究助手]



工芸専攻 鎗金研究室
—
谷岡靖則 TANIOKA Yasunori
[鎗金第5研究室 | 教授]



堀田光彦 HOTTA Mitsuhiko
[鎗金研究室 教育研究助手]



岩下みのり IWASHITA Minoru
[鎗金第5研究室(修士1年)]



若林岬 WAKABAYASHI Misaki
[油画第2研究室(修士1年)]



大堀珠美 OHORI Tamami
[鎗金第6研究室(修士1年)]



小瀬村真美 KOSEMURA Mami
[油画第2研究室 准教授]



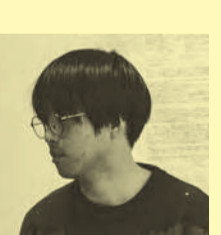
于韻碩 YU Yanshuo
[油画第5研究室 研究生]



清水花 SHIMIZU Hana
[油画第2研究室(修士1年)]



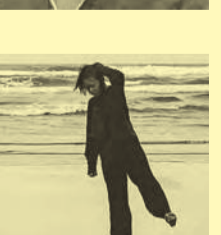
唐貫虹 TANG Guanhong
[油画第5研究室(修了生)]



山中優太 YAMANAKA Yuta
[油画第5研究室(修士1年)]



西村雄輔 NISHIMURA Yusuke
[油画第5研究室 准教授]



網野風沙 AMINO Nagisa
[油画第5研究室(修士1年)]



津田弘人 TSUDA Hiroto
[油画第2研究室(修士1年)]